

【協議事項 5】 非稼働病棟を有する医療機関の動向調査について

1 本圏域での対応について

第11回調整会議（R2. 2. 14）決定事項

非稼働病棟を持つ全ての医療機関に対し、病棟を稼働していない理由、当該病棟の今後の運用見通しに関する計画について、毎年事務局から照会を行う。

第22回調整会議（R6. 2. 8）協議結果

非稼働病棟に対し、今後の方向性について詳細な確認を行うようにとの意見あり。
→稼働未定と報告している医療機関については、2024年の病床機能報告の開始までに、今後の方向性について何らかの意思表示をするよう、事務局から依頼する。

2 調査方法

- ・ 調査期間：令和6年10月2日～10月17日
- ・ 調査対象：①令和5年度病床機能報告で休棟・休床が把握された医療機関（診療所30ヶ所）
②九州厚生局へ病床の届出がされているものの、病床機能報告がされておらず、病床稼働の実態が不明な医療機関（診療所4ヶ所）
- ・ 調査方法：「非稼働病棟の動向調査票」によりFAXもしくはメールにて回答。

3 結果概要

(1) 回答状況

（参照）3 ページ～ 非稼働病棟の動向調査結果一覧

34医療機関のうち31医療機関より回答あり。

(R6. 10. 28現在) 未回答医療機関 3

【参考】過去の調査

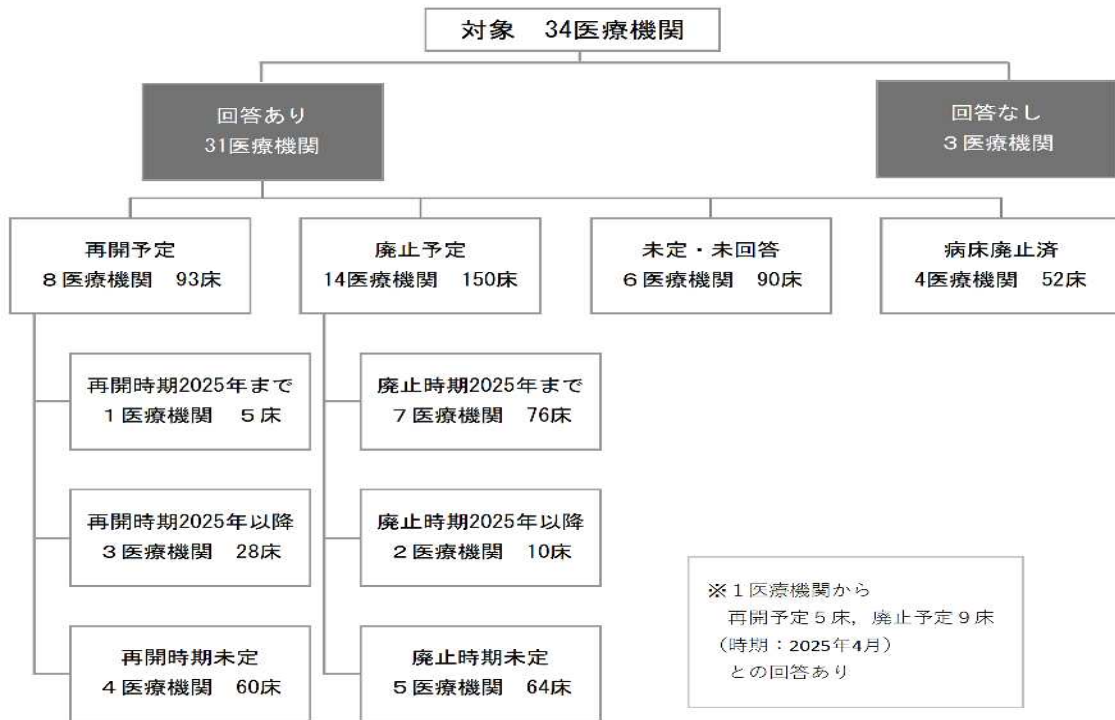
令和5年度 調査対象医療機関数30 回答医療機関数30

令和4年度 調査対象医療機関数21 回答医療機関数19

(2) 調査対象医療機関の状況

	医療機関数	非稼働病床数(種別)		合計
		一般病床	療養病床	
①休棟中	27	275	58	333
②既に病棟廃止・閉院	4	52	0	52

(3) 2025年に向けた計画について



(4) 現在非稼働の理由について

非稼働の理由(複数回答可)	回答 医療機関数
職員の不足	17
施設の老朽化	14
入院患者の減少	11
その他	8

【参考】〈再開予定医療機関のみ回答〉「職員の不足」の不足職種内訳

不足する職種	回答 医療機関数	不足人数の合計
医師	2	合計 3名
看護師	5	合計 20名
医療事務	1	合計 3名

3 ページから 4 ページについては、
委員のみ配布

4 各専門部会における協議結果

第15回高度急性期及び急性期専門部会（令和6年11月6日）開催結果

第13回回復期専門部会（令和6年11月6日）開催結果

非稼働病棟については、地域医療構想を進めていく上で、重要な要素であるため、来年度も継続して調査を事務局で行い、場合によっては当該医療機関に説明を求めながら、専門部会や調整会議の場で必要性等も含めて協議していく。

第11回慢性期及び在宅医療専門部会（11月11日書面開催）開催結果

（意見提出委員2名）

- ・人材不足については、医療機関の努力だけでは厳しいのではないか。
患者減少については、地域実情を踏まえた要因分析が必要ではないか。
- ・廃止予定（非稼働病床）の医療機関が多いことに驚いている。
施設の老朽化と職員の人材不足に問題を抱えているところは乗り越えてほしい。

第14回部会長等会議（令和6年11月28日）開催結果